

第十三回目

鳥取 浄願寺 丹羽 龍美師



発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第十三回目のテーマ

「戦争をなくし、平和を築き上げるのはどうしたらよいでしょうか」

昨今、北朝鮮の不穏な態度が少し和らいだと思いきや、今度は米中の貿易摩擦が取り沙汰されています。

日本は過去に日清・日露・第一次・第二次世界大戦を経験しています。

その結果、国土は廃墟と化し犠牲者の数は第二次世界大戦だけでも三百数十万人といわれています。

浄土真宗本願寺派では毎年9月18日には東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて全戦没者の追悼法要を営んでいます。

連研参加者のほとんどの方がご存じないようでしたが、人類が繰り返してきた戦争に

よって尊い命を失われた世界中のすべての戦争犠牲者への追悼の思いを込めた意義深い法要であります。

一方、靖国神社でも戦争犠牲者を祀っています。ただし天皇のために戦って亡くなった軍人・軍属だけということですが。

人類は戦争を繰り返す中から、その極度の残酷性を体感するたびに戦争は二度と繰り返してはならないと思い、互いに平和の大切さを確認しているのです。

それでも、戦争の悲劇は終わらないのはなぜでしょうか。

今まさにこの瞬間世界では悲惨な紛争が起きていますと報道されています。

シナイ紛争・中央アフリカの内戦・ウイグル騒乱・モロ紛争・ナイジェリア騒乱を始め中東・近東の内戦等の情報には目を覆いたくなるほど悲惨そのものであります。

戦死傷者は無論のこと、騒乱の被害を避けるために国を捨て着の身着のまま逃走を

第11期 連研だより

月余儀なくされた難民の報道される様子はま
7さに地獄そのものです。

2018年 人間は所詮、戦いを好み、戦いを離れ
ることが出来ないのではありませんか。

話し合い法座からは「宗教は、浄土真
宗は、何を説いているのですか。」と、貴
重なご意見が出ていました。

「聞其名号」（もんごみようごう）は真
宗の門信徒にとつて最も大切にして基本と
なる言葉であります。

ご聴聞ごちんぶんによつてお念仏をいただきます。
み仏のお心を頂戴することです。

大慈悲の心です。

人の悲しみが我が悲しみと受け止められる
心です。

仏のお心が頂けたらたとえ地獄でも修羅場
でもその場の状況は大きく変えられていく
はずです。

「心遣い」「気遣い」は仏法に会えた証で
す。

大勢の方がご参会くださいました。

この度の門信徒研修・活動はすべて仏法に
合わせていただける大切な機会でありま
す。

尊い仏縁であり、平和への道程みちのりでありま
す。

仏法をご聴聞され、仏縁を大事になさる
方は、戦争を避けて真に平和を守る人と
して極めて大きな働きをしてくださること
を信じます。

聞其名号の願いが世界に向けて大きく伝
播する事を念じております。



B 会場 仏 事 長 法 寺 講 師 木 村 智 晃 師

《仏事作法おさらい》

正信偈の唱法（4）

日常勤行聖典 P42参照

- ・レ音の出だし、如虚はミソラミで。
- ・念仏三行目に注意する。
- ・P43はラ音の出だしに注意。
- ・光明ニラミニラミとなめらかに。
- ・P45の願以はミの出だしで。
- ・平等ニミソラミで。
- ・最後の楽国で金を三回打つ。



第11期 連研だより

2018年7月